

令和4年度 いいとよ保育園自己評価

令和4年度 自己評価シート 実施令和5年1月

実施者数 31名

評価 (A、B、C、D) に回答を記入

I 保育の計画性	B
評価	
<p>園の理念方針はおおむね理解している。職員間での語り合いや情報共有などを意識して行っており、子どもの姿に合わせて計画していこうとする姿勢で取り組んだ。振り返りを行いながら子どもの思いを受け止めて環境構成についても計画しようとする姿勢があった。</p> <p>子どもの発達や日々の姿に合わせ、遊びの展開を見通した計画を立てることが課題となった。、また、そういった計画を立てる際の時間確保が課題である。</p> <p>年間指導計画に基づきながら子どもの姿に合わせて計画を見直し保育を進めることができている。</p>	
II 保育の在り方（3歳以上児への対応）	B
評価	
<p>子ども一人一人の思いを尊重し丁寧にかけかわることができた。また、子どもたちの思いを理解しようと、子どもの話にもよく耳を傾けたり、10の姿を意識して育ちを読み取ろうとし、子どもたちをしっかりとみていくことができていた。子どもたちの育ちについてクラスの枠に関係なく、保育者同士が情報共有をすることも多く、園全体で子どもたちに関わりと意識できた。しかし、異年齢間で情報共有していても、先を見通した環境構成、また子どもの活動の展開に応じての環境づくりには課題があると感じているので後積極的に進めていきたい。</p>	
III 保育者としての資質や能力・良識・適正	A
評価	
<p>保育者として良識を持ち園児や保護者への対応を丁寧に言うことができた。保育者として自覚を持ち、明るい挨拶や態度を心掛けることができた。また、保育者として専門知識を学ぼうと意欲的に研修に参加したり専門誌を読んだりする姿勢が多かった。反面、学んだことを活かしてきれていないことに対する反省が多い。積極的に発言していくこと、保育室や施設の整理整頓に対しては今後の課題であるので、意識を高めていきたい。</p>	
IV 保護者への対応・守秘義務	A
評価	
<p>保護者対応については日々丁寧に関わろうとする姿勢であった。保育者としての責任感を強く持ち、わからないことなどは一人で判断せず、報・連・相を基本に各自意識して謙虚な姿勢で対応することができた。守秘義務の遵守についての意識も高く、職員間守るべきことへの共有は、しっかりできている。保護者への対応に自信のなさも見られるので、さらに保護者との信頼関係を築いていくようにする。</p>	
V 地域の自然や社会とのかかわり	B
評価	
<p>地域の方々に丁寧にかけかわろうとする姿勢がある。コロナの影響もあり、地域とかけかわる機会も減り、かけかわりが希薄になっている。地域の資源も十分に活用できていない状況が続いており、今後は地域連携や地域資源の活用を意識した活動を取り入れていきたい。小学校との情報共有や接続については今後積極的にかかわったり共有することが課題となった。</p> <p>自然とのかかわりについては、園庭整備により園庭で十分に自然に触れることができ、その大切さを意識して取り組めた。また畑やプランターでの野菜栽培なども含め園内で様々な経験ができている。</p> <p>地域に出かけていく機会を増やすことが課題となっている。</p>	

Ⅵ 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	B
評価	
<p>研修や研究に積極的に取り組む機会が多かったため、職員全体の視野が広がった。さらに、研修や研究をきっかけに、個々の保育者が自主的に学ぼうとする意欲につながっていることも分かった。課題としては、学んだことを更に保育に取り入れていく実践力の弱さがあげられる。積極性や研修内容の共有など、職員自身の主体性が課題であった。学びを止めてはならないという意識が定着しているため職員一人一人が自信をもって保育につなげるようにしたい。</p>	
Ⅶ 保育の在り方(3歳未満児への対応)	A
評価	
<p>子どもたち一人一人の言葉にできない思いをくみ取ることができるように、一人一人の子どもをよく見て関わられた。また、職員間で子どもの発達を共有していったことでここに合わせたの援助をすることができた。子どもの気持ちをしっかり受け止めるよう保育にあたった。</p> <p>保険衛生面、基本的欲求、成育環境についても意識し保育することができた。発達に合わせた環境を整えていくこと、異年齢で関りを広げていくことに課題が見られた。</p>	
Ⅷ 地域における子育て支援	B
評価	
<p>地域の方々に園庭解放を行ったが、利用者は少なかった。子育て支援事業にかかわる職員だけではなく全職員が、利用者や来園者に温かく、積極的にかかわろうとした。園見学の方も多かったため、丁寧にかかわるようにし円に興味関心を持っていただけるよう努めた。</p> <p>一方、子育て支援に関わる機会がすくない職員もいて、知識や情報を得る機会が必要だと感じている。利用者に対して積極的に声をかけることはできている。</p>	